

令和8年3月10日

稲作情報 第2号



中央部営農センター	TEL : 22-2127	北部営農センター	TEL : 65-2016
東部営農センター	TEL : 55-4712	西部営農センター	TEL : 32-3160
営農経済部米穀課	TEL : 27-1601	由利地域振興局 農業振興普及課	TEL : 22-8354

令和8年産に向けて、準備をする時期となってきました。種子予措は播種後の出芽率に関わる重要な作業となりますので丁寧な管理をお願いします。

●浸種

浸種を実施する際の適切な水温は10～15℃です。この水温を下回ると種子の休眠性が深まるリスクがあります。浸種を開始する際は十分に水温への配慮をお願いします。一方で気温が高まり、水温も15℃前後となる場合は、浸種期間を長くすると発芽してしまう可能性がありますので注意が必要です。積算温度100℃が浸種の目安となりますが、**年ごとに種子の休眠性は変動しますので、よく種子の状態を観察しながら**、籾全体が透けて見え、胚が白く見える状態になったら浸種を終了とします。

また、**浸種に使う容器は底が浅い平型が最適**です。底の深い容器を使用すると底にある種子袋と容器の水面付近にある種子袋で温度のムラが発生し、同一の浸種期間であっても発芽に差が出てしまう可能性があります。底の深い容器を使用する場合は、衛生に配慮しながら容器内で種子袋の入れ替えをするなど、工夫しましょう。

浸種中は籾から発芽阻害物質が排出されますので、水が汚れたら入れ替えを行いましょう。浸種期間中2～3回程度が交換回数の目安となります。

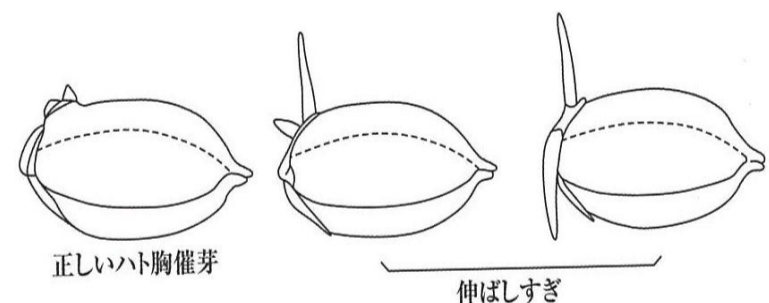
異なる品種を同一容器で浸種しないようにしてください。品種間で浸種期間に差があるためです。また、消毒方法の異なる種子の同時浸種も行わないでください。

●催芽

催芽の適切な水温は30～32℃です。品種によって発芽速度が異なりますので、催芽時間は品種によって調整をお願いします。

催芽はハト胸状態で終了とします。芽の伸ばしすぎは播種時の播きムラや芽の欠損につながりますので注意しましょう。

催芽機は使用前に洗浄し、きれいな状態で使用してください。



●単収向上に向けて

これからは米の価格高騰による需要の停滞と米価の低下が懸念としてあります。引き続き安定的な経営をしていくためには、単収をしっかりと確保していくことが非常に重要となります。適正な株数（60株以上）や植え込み本数などの基本技術の励行はもちろん、近年減少傾向となっている基肥量を見直し、稲が旺盛に生育できる量を投入することが必要です。一発型肥料であっても毎年のように高温などの異常気象が発生する条件下では今までの投入量では生育期間全体をカバーしきれない状況となってきております。

以上のことから、どの肥料を使用する際にも今一度、投入量を増やす方向でご検討ください。不明な点があれば遠慮なく、最寄りの営農センターや本店営農経済部までご相談下さい。

●稲作メールマガジンについて

令和7年4月より、稲作メール配信のシステム更新を行いました。配信は登録されている皆様に引き続き行って参ります。

栽培期間を通してタイムリーな情報を発信してまいりますので、未登録の場合はぜひ登録してご活用ください。登録は無料です！

